

項目	内容
名称	ビワ (枇杷) [英]Loquat、Japanese medlars [学名]Eriobotrya japonica (THUNB.) LINDL.
概要	ビワは中国中南部原産のバラ科ビワ属の落葉性低木である。日本では明治以降より栽培をはじめ、白い軟毛に覆われた黄橙色の実を生食やジャム、缶詰などにして食してきた。
法規・制度	<b>■食薬区分</b> ・種子、樹皮、葉：「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質 (原材料)」に該当する。  <b>■日本薬局方</b> ・ビワヨウが収載されている。
成分の特性・品質	
主な成分・性質	・種子に青酸配糖体アミグダリンを含む (103)。 ・葉にはアミグダリン、トリテルペノイドのウルソール酸、オレアノール酸、精油成分のネロリドール、ファルネソールなどの他、酒石酸やリンゴ酸などを含む (92)。 ・ ・実にβ-カロテンを多く含む (102)。
分析法	-

## 有効性

ヒ	循環器・	調べた文献の中に見当たらない。
ト	呼吸器	
での 評価	消化系・肝臓	調べた文献の中に見当たらない。
	糖尿病・ 内分泌	調べた文献の中に見当たらない。
	生殖・泌尿器	調べた文献の中に見当たらない。
	脳・神経・ 感覚器	調べた文献の中に見当たらない。
	免疫・がん・ 炎症	調べた文献の中に見当たらない。
	骨・筋肉	調べた文献の中に見当たらない。
	発育・成長	調べた文献の中に見当たらない。
	肥満	調べた文献の中に見当たらない。
	その他	調べた文献の中に見当たらない。

参考文献

- (22) メディカルハーブ安全性ハンドブック 第2版 東京堂出版 林真一郎ら 監訳  
(30) 「医薬品の範囲に関する基準」(別添1、別添2、一部改正について)  
(92) 現代中薬薬理学 天津科学技術出版社  
(2003012461) アレルギーの臨床. 2002;22(9):723-7.  
(2000001454) Environ Dermatol. 1999;6(1):35-40.  
(2006078409) 日本ラテックスアレルギー研究会会誌. 2004;8(1):92-8.  
(91) Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS)  
(101) 新・櫻井総合食品事典 同文書院  
(102) 日本食品大事典 医歯薬出版  
(103) 歴代日本薬局方収載 生薬大事典 ガイアブックス  
(104) 第十八改正日本薬局方解説書 廣川書店  
(2013283881) 小児耳鼻咽喉科. 2013;34(2):209.